



大 特 集

平昌から東京へ 今ここにあるアスナビ

オリパラ支援の意義 企業×選手＝∞



平昌オリンピック・パラリンピックが終わった。
日本勢は、オリンピックでは、長野を上回る冬季史上最多の13個、
パラリンピックでも、前回ソチを超える10個のメダルを獲得した。
いよいよ次は、2年後に迫った東京オリンピック・パラリンピックだ。

経済同友会はこれまでも、オリパラを盛り上げ、
全ての会場を満席にしようと活動をしてきた。

また、選手たちが安心して競技に取り組める環境が必要だとの認識から、
JOC(日本オリンピック委員会)とともにアスナビ(アスリートの就職支援)を進めてきた。
当会会員の所属企業の中には、積極的にアスナビ採用に取り組む企業もある。

企業にとってアスリートを支援する意味と意義は何か。

競技者の力はどのように企業に活かされるのか。

就職戦線が始まったこの時期、あらためて企業とアスリートの
幸福な関係について考えたい。

INDEX

特集1 04

誌上対談

アスリート支援で得られるもの

企業と選手のWin-Winな関係を考える

志岐 隆史

経済同友会 東京オリンピック・パラリンピック

2020委員会 副委員長

×

荒木田 裕子

JOC理事

特集2 09

私たち、働いてます！

アスナビ採用アスリート社員のいま

NTTコムウェア／三菱電機／キッコーマン／

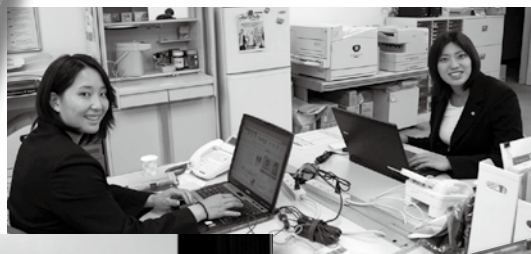
全日本空輸／ポピンズ

特集3 14

私たち、支援を待っています！

アスナビ説明会を開催

登録選手29人を一挙掲載



誌上対談

アスリート支援で得られるもの

企業と選手のWin-Winな関係を考える

志岐 隆史 (経済同友会 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長 (全日本空輸 取締役副社長執行役員)) × **荒木田 裕子** (日本オリンピック委員会 (JOC) 理事)

アスナビを契機に企業のアスリート採用が注目されている。その意味と意義について、志岐隆史経済同友会東京オリンピック・パラリンピック2020委員会副委員長と、オリンピックで日本オリンピック委員会 (JOC) 理事の荒木田裕子氏に語ってもらった。誌上対談の形でお届けする。

——まずは平昌オリンピックについての感想を。

志岐 当社所属のアイスホッケーの床亜矢可選手、スケート・ショートトラックの菊池悠希選手の応援をするため、私も平昌に行きました。町全体がグローバルな雰囲気なのが印象的でしたね。いろいろな国の方が町中を歩いていて、もちろん会場に行けば各国の応援団がいます。開会式は屋根がなく寒かったですが、盛り上がりはすごかったです。

荒木田 以前、オリンピックに出場する選手が「楽しみたい」と発言して一部で批判されたことがあります。ですが今回、その本当の意味を分かっていた気がします。



平昌で応援する全日本空輸「HELLO 2020」のメンバー。期間中、交代で現地に入った (右写真中央は志岐氏) = 同社提供



選手が「楽しむ」という意味は、逆境を乗り越えてありとあらゆる準備をし、早く試合がしたくてワクワクしている、ということです。そこまで突き詰めたアスリートのコメン

トには重みがありました。今回のオリンピックでは、そういう部分をメディアもフィーチャーし、見る人の理解が深まったと感じられてうれしいです。現在、JOC 選手強化本部では「人間力なくして、競技力向上なし!」というスローガンを掲げています。人間力が伴って初めてメダルが取れることを証明してくれたと、誇らしく思います。

東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長
(全日本空輸 取締役副社長執行役員 営業部門統括)

志岐 隆史

1955年長崎県生まれ。80年慶應義塾大学経済学部卒、全日本空輸入社。14年取締役執行役員、15年常務取締役執行役員、17年4月から現職。2012年4月経済同友会入会。16年度から幹事。東京オリンピック・パラリンピック委員会は14年度から委員、15年度から現職。

アスナビとは

現役トップアスリートと企業をマッチングする、JOCによる無料の職業支援制度。



平昌オリンピックでのアスナビ選手の結果

(経済同友会会員所属企業のアスナビ採用選手)

女子アイスホッケー

選手名	所属企業	1次リーグ	結果	順位決定戦	結果	総合順位
床 亜矢可(※1)	全日本空輸	日本vsスウェーデン	1-2	日本vsスウェーデン	2-1	6
久保 英恵(※2)	太陽生命保険	日本vsスイス	1-3	日本vsスイス	0-1	
小西 あかね	久慈設計	日本vs韓国	4-1			

※1：順位決定戦のスウェーデン戦で1点得点

※2：1次リーグのスイス戦、韓国戦で各1点得点

スケート・男子ショートトラック

選手名	所属企業	種目	順位	最終結果
横山 大希	トヨタ自動車	1500m	23	予選敗退
		5000mリレー	7	順位決定戦

スケート・女子ショートトラック

選手名	所属企業	種目	順位	最終結果
菊池 悠希	全日本空輸	3000mリレー	6	順位決定戦
		1500m	—	記録なし



床 亜矢可選手(背番号4)
=全日本空輸提供



小西 あかね選手(背番号30)
=久慈設計提供



久保 英恵選手(背番号21)
=太陽生命保険提供



菊池 悠希選手(中央)
=全日本空輸提供

——企業の所属選手も多く出場しました。企業とアスリートの関係については、どうお考えですか。

志岐 当社グループは、スポーツ全般に理解があり、アスナビでの採用数も多いです。現役中はアスリート活動を優先してもらい、日本代表選手に選ばれれば、会社として壮行会を開きます。身近な社員がスポーツの大イベントで活躍するのはうれしいものです。社内には、東京オリンピック・パラリンピックの代表候補選手の社員を応援するチーム「HELLO 2020」があり、リーダーはグループ各社にいます。選手の出る大会は必ず誰かが応援に行くようです。

荒木田 私が現役のころは、企業が福利厚生の一環でスポーツチームを持つのが主流で、選手も正規雇用がほとんどでした。社員の皆さんに応援していただき、仕事より練習中心の生活で、恵まれた環境でした。それが、バブル崩壊後、企業のスポーツ支援が減ってきました。オリンピックを目指すレベルにいながらアルバイトをしているアスリートも多かったんです。そんなアスリートたちを何とかしようとアスナビを始めました。

——アスナビが始まって8年ほどになります。

荒木田 2010年に経済同友会のご協力で、企業の皆さんにアスリートの現状に目を向けてもらおうと説明会を開きました。そのとき参加した中には、その場で採用が決まった

日本オリンピック協会 理事

荒木田 裕子 氏

1954年秋田県生まれ。バレーボール全日本女子で世界選手権(74年)、オリンピック(76年)、ワールドカップ(77年)の三冠を達成。欧州で選手、指導者として活躍後、87年に帰国、テレビ解説、講演、指導などに当たる。2017年から現職。JOCでは選手強化本部副本部長も務める。





アスリートもいました。これがきっかけで始まったのがアスナビです。これまでに139社209人（3月5日時点）が、アスナビ経由で社員が契約社員として採用されています。

志岐 アスナビが始まったところから、当社はより積極的にアスリートを採用するようになりました。もともと、いろいろなタイプの人材を採用していて、アスリートだから特別なのではありません。アスナビで面接するアスリートは

光るものがあり、自己アピールもしっかりできるようです。

荒木田 採用していただいた企業にヒアリングすると、同年齢の社員と比べて大人だとか、人間として魅力的だという声を聞きます。アスナビ採用をした企業が、その競技団体の大会スポンサーになってくれたこともあります。

志岐 トップクラスの選手は普段から頑張っており、努力を惜しまず鍛錬して、いい成績を取ろうとします。そうした態度は、会社で働くときでもベースとなるところです。

荒木田 アスリートは結果を出すため、強い意志を持ち、データを分析して高い目標に向けてきちんと行動します。チームスポーツなら、協調性やマネジメント力もあります。そういう部分は、ビジネスでも活かせると思います。

志岐 そういう人は、どこでも通用すると思います。

——就職を希望しているアスリートに望むことは？

志岐 採用時に基本的な研修はしますが、現役中はあくまで練習や試合が優先で、勤務は活動の合間、というサポートをしています。選手の間は徹底して頑張るという腹くくりは必要だと思います。引退したら、今度は会社の仕事を徹底する。仕事でも貢献してもらえると期待しています。

荒木田 アスリートは社会人としてやっていく能力を身に付けなければなりません。われわれは「自律・自立」できるアスリートを育てないといけないし、アスリートにもそれを目指してほしいです。アスリートが人間力を身に付けるために、各競技団体の強化指定選手やそのコーチを対象に、「JOC キャリアアカデミー」を開いています。アスナビ、アスナビNEXT*以外にも選手・コーチを対象とした研修を1年間に120本以上実施しています。講師は、人材育成の専門家やオリンピックなど、キャリア的な目標達成研修など、さまざまなメニューがあります。

4月からは「覚悟～メダリストの闘い」という題の新しい研修も始めます。自国開催やメダルのプレッシャーにどう対処するか、メダリストや指導者から、経験を毎月1回、(味の素ナショナルトレーニングセンターで)合宿しているアスリートに、本音で話してもらいます。チーム日本としての一体感の醸成にもつながると思っています。

アスナビ採用の冬季種目選手

(平昌オリンピック欠場、経済同友会の会員所属企業に採用された選手)

選手名	種目	採用企業
家根谷 依里(引退)	スキー・スノーボード・アルペン	大林組
平野 由佳	アイスホッケー	ローソン
岩本 懂子	スキー・フリースタイル・モーグル	ヤマノホールディングス
小黒 義明	スケート・ショートトラック	三菱電機
神野 慎之助	スキー・スノーボード・アルペン	トヨタ自動車
三澤 夏陽	スケート・ショートトラック	トヨタ自動車
本間 南	ボブスレー	ポピンズ

計7人

*引退したトップアスリートのセカンドキャリア支援



——アスリートの採用についての課題は何でしょう。

志岐 課題や不安はあまりないですね。アスナビで採用した人材は役に立つという確信があります。選手を採用したことをJOCから感謝されることもあるのですが、あくまで会社のためになると思ってのことで義務感ではないんです。

荒木田 企業とアスリートが「Win-Win」の関係を作っていく必要があります。企業にとっては、アスリートを採用することで、組織の士気の高揚や一体感が醸成できるというメリットがあります。われわれもアスリートが企業の役に立っていることを広報しないとイケないと考えます。アスリート採用実績のない企業は、どう彼ら、彼女らを活用するのか、どう企業の一体感を醸成していくのか、ノウハウが不足しています。その知識を共有して提供する場も、われわれが作っていかねばと思っています。先日でも20数社を集めた情報交換会を開き、アスリート採用の先輩企業から新しく採用した企業に情報を提供してもらいました。

企業には、アスリートが引退後に会社の仕事にかかわりやすいよう、難しいかもしれませんが、現役中もキャパシティーに応じて仕事を与えることをお願いしたいです。

志岐 アスリートの採用に悩んでいる会社もあるかもしれませんが、選手が現役の間はサポートし、引退後は社員として活用する会社も少なくありません。当社は今後も、純粋にアスリートを迎え入れ、将来は戦力にします。アスリートはスポーツで鍛えられているので、感じがいいですよ。

平昌オリンピックでの経済同友会会員所属企業の所属選手の結果

男子スキージャンプ

選手名	所属企業	種目	総合	順位
竹内 択	北野建設	ラージヒル	234.2	22
		団体	940.5	6

女子スキージャンプ

選手名	所属企業	種目	総合	順位
岩淵 香里	北野建設	ノーマルヒル	188.3	12

スキー・ノルディック複合

選手名	所属企業	種目	飛躍	順位	距離	順位	最終順位
渡部 善斗	北野建設	ノーマルヒル	114.3	8	26:16.2	12	12
		ラージヒル	110.6	20	26:07.9	20	20
		団体	455.3	3	48:18.6	4	4
渡部 暁斗	北野建設	ノーマルヒル	123.7	3	24:56.2	2	2
		ラージヒル	138.9	1	24:05.0	5	5
		団体	渡部善斗選手参照				

スケート・男子フィギュアスケート

選手名	所属企業	種目	得点	順位	合計	順位
羽生 結弦	全日本空輸	SP	111.68	1	317.85	1
		フリー	206.17	2		
宇野 昌磨	トヨタ自動車	SP	104.17	3	306.90	2
		フリー	202.73	3		
		団体男子SP	103.25	1		

※団体結果：5位(10カ国中)

スケート・女子ショートトラック

選手名	所属企業	種目	順位	最終結果
菊池 純礼	トヨタ自動車	500m	29	予選敗退
		1000m	20	予選敗退
		1500m	11	順位決定戦
伊藤 亜由子		3000mリレー	6	順位決定戦

スキー・女子スノーボード

選手名	所属企業	種目	順位
鬼塚 雅	星野リゾート	スロープスタイル	19
		ビッグエア	8

平昌パラリンピックに出場した選手

(経済同友会会員所属企業の所属選手)

男子アルペンスキー

選手名(所属企業)	種 目	最終順位
森井 大輝(トヨタ自動車)	滑降(座位)	2
	スーパー大回転(座位)	8
	大回転(座位)	途中棄権
	回転(座位)	4
	スーパー複合(座位)	途中棄権

アイスホッケー

選手名(所属企業)	1次リーグ	最終結果
安中 幹雄(日本たばこ産業)	韓国4-1日本	8
上原 大祐(日本電気)	米国10-0日本	
塩谷 吉寛(セイコーエプソン)	チェコ3-0日本	
柴 大明(日野自動車)	順位決定戦	
三澤 英司(日本製紙)	ノルウェー6-1日本	
吉川 守(中部電力)	スウェーデン5-1日本	

——パラアスリートの支援についてはいかがでしょう。

志岐 パラリンピックについては特に、応援に力を入れようとしています。中でも、ブラインドサッカーは当社が直接スポンサーになっているので、選手やコーチに会社に来てもらって、ブラインドサッカー講習会も開いています。

実際に見たり触れたりすると、面白いスポーツだということが分かり、パラ競技への心のハードルが下がりますね。

経済同友会としては、パラリンピックに軸足を置いて支援しています。東京大会では各会場を満員にするのが目標です。そのための階段は確実に登っていると思います。

荒木田 パラアスリートも、32人がアスナビを通じて就職が決まっています。パラアスリートの精神力はすごく強い。企業にとってもいろいろな意味で力になると思います。採用では、社内施設のバリアフリー化など障がい者対応の問題はありますが、それをクリアしている企業ならば、パラアスリートが頑張っている姿を見ることは、オリンピックのアスリート以上に、社員に勇気や感銘を与えてくれます。

——東京オリンピック・パラリンピック、さらにその後に向けて、未来像をお聞かせください。

志岐 産業界としては、ポスト東京オリンピック・パラリンピックについてもすでに考え始めています。IT化の流れで、日本はITインフラを整えていく状況にあります。例えば、空港のセキュリティに顔認証システムを導入するなど、新しいインフラが2020年までに作られるはずです。そうしたレガシー(遺産)を残すことが大事だと思います。

荒木田 指導者の人材を増やせる環境が必要です。教員の枠も減っていて、指導者は今、大変です。企業がサポートしてくれればうれしいですが、国からも何か支援が欲しいですね。最近のアスナビのおかげか、アスリートの存在が会社にとってメリットになると思っていただけるようになってきたと感じています。アスナビをもっと地方にも展開させたいし、「ワンカンパニー・ワンアスリート」だけでなく、「メニーカンパニーズ・ワンチーム」もあり得るので、今後はさらに広く情報を発信していきたいです。

アスナビ採用で東京2020大会を目指す夏季種目の選手

(経済同友会の会員所属企業の採用選手のみ、P09~13掲載の選手と4月1日入社の内定者を除く)

オリンピック

種 目	選手名(所属企業)
近代五種	黒須 成美(東海東京フィナンシャル・ホールディングス)
水泳・競泳	小林 奈央(あいおいニッセイ同和損害保険)
	渡邊 一輝(全日空商事)
	古賀 淳也(第一三共)
	山中 祥輝(ティラド)
	小松 巧、平井 彬嗣(郵船ロジスティクス)
体操・新体操	松原 梨恵(東海東京フィナンシャル・ホールディングス)
体操・トランポリン	山田 紗菜(ルミネ)
バレーボール・ビーチバレー	朝日 健太郎(フォーバル)
フェンシング	下大川 綾華(テクマトリックス)
	大石 葉菜、大石 利樹(山九)
ラグビーフットボール	鈴木 実沙紀、中丸 彩衣(NTTファシリティーズ)
	谷口 令子(凸版印刷)

計16人

パラリンピック

種 目	選手名(所属企業)
車いすバスケットボール	川原 凜(ローソン)
水泳	小野 智華子、宮崎 哲(あいおいニッセイ同和損害保険)
卓球	板井 淳記(旭化成)
テコンドー	伊藤 力(セールスフォース・ドットコム)
パワーリフティング	西崎 哲男(乃村工芸社)
ボッチャ	高橋 和樹(フォーバル)

計7人

私たち、働いてます！

アスナビ採用 アスリート社員のいま

アスナビで採用された社員アスリートは3月5日現在、経済同友会の会員所属企業で31社68人に上る（4月入社内定者を含む）。過去のアスナビ説明会の登壇者を中心に、東京2020など国際大会を目指す社員選手たちを紹介する。



（黒川 魁 選手）
バレーボール・ビーチバレー

INDEX

NTTコムウェア	P09
三菱電機	P11
全日本空輸、ポピンズ	P12
キッコーマン	P13

NTT コムウェア

撮影：鈴木愛子 (P09)
写真提供：NTTコムウェア (P09左上)

黒川 魁 選手

バレーボール・ビーチバレー
NTTコムウェア
総務人事部CSR推進室



Q1 どんな仕事を？

2017年4月に入社し、CSR推進室に所属しています。出社は社内向けブログで活動報告をしています。試合の予定や結果報告、地方大会の際に訪問した拠点の様子などです。2017年度は福岡、大阪、広島、松山、名古屋の拠点を計9回訪問し、他拠点の社員の皆様と触れ合い、応援してもらいました。

会社が派遣依頼をいただいたビーチバレー教室で講師もします。東京2020でビーチバレー会場になる東京都品川区では2017年度は20回、約1000人の小中学生に教えました。まだ認知度の低いビーチバレーを、多くの方に知ってもらい応援に来てもらいたいです。

Q2 仕事と競技の両立は？

5～10月がビーチバレーのシーズンです。週末に地方などで試合に出場し、平日は社内ブログで結果報告、練習、そして次の遠征地に移動し、最寄りの他拠点を訪問します。そしてまた週末に試合という繰り返しです。忙しいときはこれが3～5週続きます。

今はシーズンオフなので遠征はありません。練習はトレーナーと相談し、コア(体幹)トレーニングやピラティスも採り入れて筋力強化を図っています。筋力を増やせば動きに余裕が出て成長できます。

NTT コムウェア

Q3 なぜアスナビに？

大学卒業後はアルバイトをしながら競技を続けるつもりでした。でも事務局に声を掛けていただき参加した2016年10月のアスナビで、当社と出会えました。当社はNTTグループで活躍した野球、サッカー、ラグビーなどの元選手が数多く在籍し、スポーツに理解があります。ここならばと思いました。アスナビは企業からの支援の有無で将来が違います。当社に入れて感謝しています。

Q4 会社に入って良かったことは？

大学時代は試合で実績がありましたが、シニアデビュー後の序盤、結果が思うように出せませんでした。そこで会社と相談して、トレーニング環境を強化していただきました。おかげで、中盤から結果を出せるようになり、トップツアーの一つ下のクラスですが、優勝や準優勝でき、上のランクの選手と競れるようになりました。

後輩のアスナビには、アスナビの前に、まず見られる立場になることを自覚して、SNSも含めてきちんとするのが一番大事だと言いたいです。アスナビで採用されるということは、会社の顔になる、公人になること。応援したいと思われる選手であれば、企業さまからお声をいただけたと思います。

Q5 東京2020大会への意気込みを

オリンピックに出て勝ちたいです。おそらく来年には選考会があります。時間は限られていますが、一日ごとの目標設定を意識し、積み重ねた先に勝てるよう頑張ります。ビーチバレーは会場が近いので、ぜひ応援に来てください。

所属企業から

総務人事部 CSR 推進室 担当課長 宮本 武 氏

①アスナビで選手を受け入れたことのメリット

黒川さんが頑張りと、それを社員が応援することで一体感が醸成されています。特に遠征のたびに、訪問した他拠点の社員との距離感が縮まったと感じています。

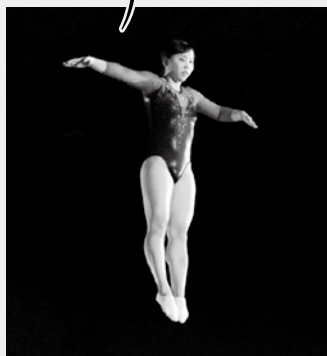
②選手の、仕事と競技の両立について気を付けていること

仕事も競技も社会人としての自覚を持たせることを心掛けています。その第一歩として報連相(ほう・れん・そう)を徹底してもらっています。

選手への質問 ①仕事と競技の両立で気を付けている(いた)こと
②アスナビで就職して良かったこと
企業への質問 ○競技者を採用しての感想

(土井畑 知里 選手)

体操・トランポリン



①競技、仕事ともに、今自分にできることを精一杯することを心がけています。②会社の方々の応援は、大会で戦う際の心の支えになります。また、結果が残せると、自分のこのように喜んでくださることが幸せです。



(大坂 昂 元選手)

レスリング



②競技活動を続けるためには練習時間と競技資金の確保が必須です。活動を続けることができないアスリートが何人もいる中、理解ある企業に採用いただいたことで不安なく競技に打ち込むことができました。



(宇山 賢 選手)

フェンシング



①社会人として仕事に従事していても、競技で手を抜かず決して妥協しないことを第一に考えています。②道具代や遠征費など競技にかかる費用や、引退後のキャリア形成における不安が大きく減りました。



(上山 友裕 選手)

パラ・アーチェリー

①勤務時は、自分に空き時間ができれば手が回っていない仕事がないか確認をして、時間の無駄がないよう工夫しています。②世界で戦うために必要な練習時間を平日に確保できることが成績向上につながりました。



(丸茂 圭衣 選手)

水泳・シンクロナイズドスイミング



①両立する上で、会社にいるときは競技のことを忘れ、しっかり気持ちを切り替えるようにしています。②入社してから経済面が安定し競技に集中できています。応援してくれる人が増えたことも大きな原動力になります。



所属企業から

人事部 坂本 一樹 氏

日ごろ机を共に囲む選手が大会で結果を残すと、社員は勇気もらい仕事の活力になります。リオ五輪の際は活気が生まれました。彼らに触発されて運動を始めた者や興味を持った者も増え、スポーツ振興・健康増進の観点でも良い傾向です。

三菱電機

写真提供:三菱電機

(柳岡 はるか 選手)

フェンシング



①どちらも中途半端にしないこと。仕事と競技どちらも、生活リズムが狂って影響が出ないようにしています。②応援してくれる人が増えたこと。グループ会社含め、他の競技のアスリート社員の方の活躍も刺激になります。



(横尾 千里 選手)

7人制ラグビー

①時間を決めてその中でやり切る。②応援してくださる方が増え、自分だけの夢ではなくなったことと、ラグビーに思いっきり没頭できるようになったこと。



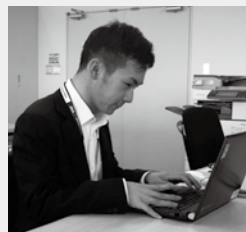
(松原 颯 選手)

水泳・競泳



(相園 健太郎 選手)

パラサイクリング



①競技のときは競技に、勤務のときは仕事に集中するよう気持ちを切り替えること。②多大なご支援とご理解をいただき、より集中して競技に取り組めるようになりました。感謝の気持ちを忘れず、仕事と競技の両立に励みます！

所属企業から

— 人事部 ANA's Way 推進チーム リーダー 高野 弘樹 氏

社員アスリートが必死に練習し、世界の舞台で勇敢に戦う姿を見て、多くの社員が感動と勇気もらっています。また、努力・創意工夫・人間力など、さまざまな潜在能力を感じており、仕事・競技両面での今後の活躍が心から楽しみです。

全日本空輸

写真提供:全日本空輸



(小川 将司 選手)

バレーボール・ビーチバレー

①気力・体力が充実するよう、体調管理に一番気を付けています。②競技に打ち込める環境を作っていただけて感謝しています。体操指導を通して、子どもたちの元気な笑顔に触れることが気力の充実につながっています。



（竹下 百合子 選手）

カヌー



①シーズン中は競技に専念し、オフはできる限り会社の業務に就きます。②安心して競技に取り組める環境を整えていただき、ありがたく感じています。試合を応援していただき、社員の皆さんとカヌー教室もしています。

①競技と仕事のメリハリをつけるため、スケジュール調整に一番気を付けています。②社内で声をかけてもらったり、試合に足を運んでもらったりと、さまざまな形で応援していただけることがとても励みになっています。

（清和田 雅美 選手）

空手



キッコーマンの食育活動「しょうゆ塾」とともに講師を務める竹下選手(右)、上田元選手(左)

（上田 春佳 元選手）

水泳・競泳



①競技中は出社回数が少なかったですが、できるだけ公式ブログで発信していました。②社員の力強い応援がうれしかったです。競技以外の視野が広がり、人とのつながりが増えたのも企業に就職したからこそだと思います。



①現在は競技専念ですが、月1回程度の出勤日は公式ブログの更新や電話対応、データ入力などを行っています。

②周りの方々が優しく教えてください、少しずつできることが増え、仕事にもとてもやりがいを感じています。



所属企業から

—常務執行役員 CHO 人事部長 松崎 毅 氏

競技者社員の、常に世界の頂点を目指して挑戦する姿勢は、当グループの経営方針の一つ「攻めの姿勢を忘れずに挑戦する」ことを体现しています。世界各国で挑戦する当グループの社員に刺激を与え、一体感の醸成の一助になっています。

キッコーマン

写真提供:キッコーマン

（岸 大貴 選手）

体操・トランポリン

①気持ちの切り替えです。②子どもたちにスポーツを教えることでパワーをもらっています。就職後、周囲の方々に応援していただいていることを強く感じます。社会人になって特に、競技への責任感が持てました。



所属企業から

—代表取締役CEO 中村 紀子 氏
(経済同友会 東京オリンピック・パラリンピック 2020委員会 委員)

創立以来30年、乳幼児教育で「本物に触れる体験」を大切にしている当社は、さまざまな分野のプロを採用しています。オリンピックを目指す競技者も「スポーツのプロ」として日々、子どもたちにかかわっています。彼らは子どもたちの憧れの存在。人気を博しています。

ポピンズ

写真提供:ポピンズ

私たち、支援を待っています！

—アスナビ説明会を開催

トップアスリートの就職を支援する「経済同友会アスナビ説明会」が3月9日、開かれた。今回は9回目。アスナビは、現役トップアスリートと企業をマッチングする就職支援制度だ。2010年から2018年3月5日現在までにアスナビで採用された選手は計139社209人に上る(2018年4月入社内定者を含む)。この日は、経済同友会の会員所属企業など35社45人を前に、男女6人の選手が競技の紹介や意気込みを発表した。懇談会では選手が積極的に名刺交換し、自らを売り込んでいた。



好奇心と向上心で仕事と競技の両立を

狩野 愛巳 (かの みなみ)
フェンシング・フルーレ

●1996年生まれ(21歳)。宮城県宮城郡出身。早稲田大学スポーツ科学部卒業見込み(2019年3月)。●7歳でフェンシングを始める。2015年ジュニアワールドカップ8位/2016年アジア選手権大会3位/2017年アジア選手権大会3位/2017年世界選手権大会16位。

ほかの人以上に練習して人並みな私の強みは、練習を努力ではなく必要なこととしてできること、1%でも可能性があればあきらめないことです。オリンピック出場という目標を社員の皆さまと一緒に目指して、努力する姿で社員の皆さまの活力となっていきたいです。学生時代に文武両道を実現したように、好奇心と向上心で仕事と競技の両立を目指します。



挑戦することで学びを増やしたい

佐久間 滉大 (さくま こうだい)
陸上競技・走幅跳

●1996年生まれ(21歳)。神奈川県横浜市出身。法政大学スポーツ健康学部卒業見込み(2019年3月)。●日本陸上競技連盟の「ダイヤモンドアスリート2014-2015」11人のうちの1人として認定される。2016年織田幹雄記念国際陸上競技大会3位。

大学入学後、記録の伸び悩みなどから単身渡米、米国で1カ月間練習しました。帰国後も米国で学んだ技術などを採り入れようと試行錯誤しましたが、うまくいかず悔しい思いもしました。一部だけを採り入れることで、自分の強みに気付きました。仕事でも、失敗を恐れず挑戦することで学びを増やしていきます。学んだ英語も仕事でも活かしていきたいです。



めげずに目標に向かって突き進む

央戸 美華 (ししど みはな)
カヌー・スプリント カヤック

●1996年生まれ(21歳)。神奈川県藤沢市出身。同志社大学スポーツ健康科学部卒業見込み(2019年3月)。●小学2年生でカヌー・スプリント競技を始める。2017年オーストラリアナショナルカヌー・マラソン選手権U23 22.6km 3位。

約15年間の競技生活の中で、日本代表候補に選ばれながらも代表に入れなかった経験をして、オリンピック出場という夢が明確な目標に変わってきました。かなわないことがあっても、そこで悲観せず、目標に向かって突き進めるところが、私の長所です。士気向上、会社の認知度アップなどに貢献するため、努力と笑顔で頑張ります。

P14~15に掲載されている選手ら、トップアスリート支援についてのお問い合わせはこちら。

JOC キャリアアカデミー e-mail: career@joc.or.jp Tel: 03-5963-0354
※電話受付時間は平日午前10時から午後6時まで 担当: 原口



応援してよかったと思われる選手に

野口 宜裕 (のぐち よしひろ)
ラグビー・男子7人制ラグビー

●1994年生まれ(23歳)。東京都出身。専修大学法学部政治学科卒業見込み(2019年3月)。●2017年、大学生ながら日本代表に選出。2017年ジャパンセブンズ2017優勝/2017年アジアラグビーセブンズシリーズスリランカ大会で準優勝し、シリーズ総合優勝。

学生、プロ、日本人、外国人とさまざまな人が集まるセブンズの代表チームはダイバーシティの縮図と言えます。試合はわずか14分間で勝負が決まるため、コミュニケーション力が求められます。逃げない、失敗を恐れない、明るく元気に挑戦する、が私の信条です。培った経験を活かして仕事にも貢献し、心から応援してよかったと思ってもらえる選手になりたいです。



メダルを目指す過程を共有したい

長谷川 大悟 (はせがわ だいち)
陸上競技・三段跳

●1990年生まれ(28歳)。神奈川県横浜市出身。東海大学情報理工学部卒業。2017年日立ICTビジネスサービス退職。●中学時代に陸上競技を始める。2015年アジア陸上競技選手権大会6位/2016年リオデジャネイロオリンピック予選29位。

前職では週5日勤務し、勤務後に練習していました。仕事と競技との両立を図る中でさまざまなことを学び、工夫を生み出しました。この積み重ねが、2016年、三段跳での日本代表として12年ぶりのオリンピック出場につながったと思っています。人生の全てをかけて東京オリンピックでメダルを取る、その過程の成長を社員の皆さまと共有し、士気高揚を図りたいです。



集中力を武器に全力で取り組む

前田 寿隆 (まえだ としたか)
テコンドー・キョルギ58kg級

●1997年生まれ(21歳)。愛知県長久手市出身。大東文化大学文学部卒業見込み(2019年3月)。●小学4年生でテコンドーを始める。2017年全国学生テコンドー選手権大会男子63kg級優勝/2017年カナダオープンテコンドー選手権大会男子63kg級5位。

6歳から学んだ空手で培った闘争心と、テコンドーで培った集中力は、私の最大の強みです。リーダーシップを取ることも得意で、大学では日本一の実力を誇るテコンドー部で主将を務めました。大学選手権大会では個人だけでなく、団体も優勝に導きました。就職後も業務や競技に対し、闘争心あふれる熱意と集中力、感謝の心で全力で取り組みます。

その他の現役続行のための就職支援希望アスリート一覧

夏季 競技選手



油井 快晴(22歳)
陸上競技・短距離



中村 克也(22歳)
陸上競技・やり投げ



墨 訓熙(24歳)
陸上競技・ハンマー投げ



石川 周平(22歳)
陸上競技・110mハードル



古谷 拓夢(21歳)
陸上競技・110mハードル



但野 瑠勇(22歳)
バレーボール・ビーチバレー



本村 嘉菜(22歳)
バレーボール・ビーチバレー



島田 諒太(27歳)
体操・トランポリン



長谷川 孝(32歳)
セーリング・ヨット



吉村 樹希敢(25歳)
自転車・BMX



菊池 小巻(21歳)
フェンシング・フルーレ



渡邊 えみ里(21歳)
カヌー・スプリント カヤック

冬季 競技選手



松橋 亜希(25歳)
スキー・ジャンプ



鈴木 湧也(23歳)
スキー・スノーボード アルペン



齋藤 慧(22歳)
スケート・ショートトラック



一戸 誠太郎(22歳)
スケート・スピードスケート



村上 右磨(25歳)
スケート・スピードスケート



横山 碧生(20歳)
スケート・スピードスケート



浅野 晃佑(27歳)
ボブスレー



宮嶋 克幸(22歳)
スケルトン

パラリン ピック 選手



佐藤 駿(22歳)
ボッチャ



辻村 真貴(23歳)
ゴールボール



大堂 秀樹(43歳)
パラ・パワーリフティング